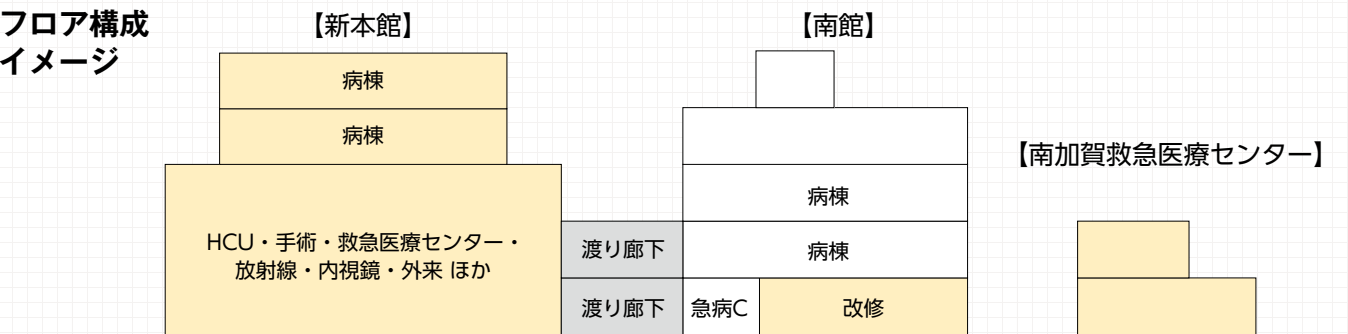


4 新病院の整備概要

施設整備の基本的な考え方

南館は耐用年数が半分程度しか経過していないことから、施設の長寿命化を図り、活用します。
新本館は立地を含めた患者の利便性から「現在地」を建設地とし「南館に隣接した建替え案」を軸に検討を進めます。



病床数について

- 新本館の整備規模は、以下のように想定します。
 - ①病床数：180～195床
 - ②面 積：16,200～17,550㎡
180～195床×90㎡/床を想定

病床機能	現状	新病院
一般病床	275床 (南館：78床含む)	248～263床 (南館：78床含む)
一般病床以外 (結核、感染症)	10床	10床

5 事業費とスケジュール

事業費は近年の病院整備事例から、230～250億円を想定しています。今後、基本計画の策定後に設計と施工手法を決定するため、事業費、スケジュールは変更になる可能性があります。

事業費

区分	内容	事業費(概算)
調査・設計	設計・工事監理費 など	5億円程度
建設工事	建設工事費・既存建物改修工事費・既存建物解体工事費・外構工事費 など	160～180億円程度
そのほか	医療機器・医療情報システム等整備費 など	65億円程度
計		230～250億円程度



事業スケジュール

令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年	令和12年	令和13年	令和14年
構想・計画		設計		建設工事		外構工事・改修・解体		



当院が現在の向本折町に移転してから36年が経過しました。その間に南館及び南加賀救急医療センターの増築を行いました。本館は老朽化しつつあり、必要な医療器械の配置には若干の狭さを感じるようになってきました。今後も「南加賀にお住まいの皆さんの健康を守る」という使命を遂行するためには、本館の新築が必要と考えています。
7年後の開院に向けた準備が始まりました。今後とも皆様のご支援をお願いします。

小松市民病院 病院長 内山 尚之 さん



地域に寄り添い、安心の医療体制を ～市民の皆さんと共に歩む、安心と信頼の拠点へ～

「小松市民病院経営強化プラン」において、現在の本館設備では求められる入院・外来・診療機能を果たすことが困難との意見が示されました。この意見を踏まえ、小松市民病院では本館設備の整備について進めています。

問い合わせ

市民病院 ☎22・7111

1 基本構想策定の背景

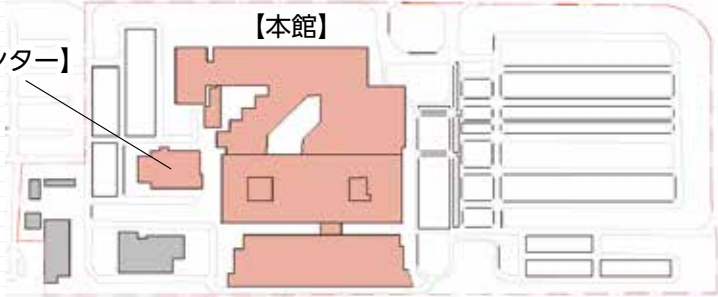
- 小松市民病院は、南加賀の中核病院として、また、地域医療支援病院として、地域の医療機関と共に地域医療への貢献に努めています。
- 今後、地域でどのような役割を担っていくべきか、そのためにはどのような整備をしていくべきかの方向性を示すため「小松市民病院建設基本構想」をまとめました。



2 小松市民病院の現状と課題

現状

- 敷地面積48,315.95㎡
- 竣工年月
[本館] 昭和63年竣工、地下1階・地上8階
[南館] 平成18年竣工、地上4階
[南加賀救急医療センター] 平成24年竣工、地上2階



課題

本館は一定の耐震基準は有しているものの築36年が経過し、老朽化が進んでいます。また、時代の変化に応じ、手狭な空間を増築で補ってきましたが、その結果、機能が分散することによる動線の複雑化などの課題が生じています。

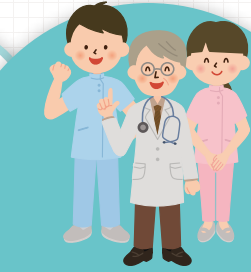
3 小松市民病院が果たすべき役割と機能

新病院の目指すべき将来像

- 新病院の整備コンセプトは、当院の基本理念・基本方針を遵守し、以下のとおりとします。

地域医療構想などを 踏まえた役割・機能

- 高度医療・急性期医療・救急医療の強化・充実
- 政策医療の継続
- 災害拠点病院としての機能強化
- 産学官連携



地域と「共に歩む」
南加賀の拠点病院

地域医療支援病院としての 機能分化・連携強化

- 外来診療の見直し、紹介率・逆紹介率の向上
- 入院診療の適正化